



令和5年度 第57号  
 令和6年3月13日  
 熊本市立本荘小学校  
 校長 西川 英臣

令和5年度の学校評価の結果から その3 安心安全な学校づくりとご家庭と学校との連携について。

| ④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進  |   |
|--|---|
| 7 安全と事故防止  | 8 家庭や地域との連携協力   |
| 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。   | 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。  |
| <p>保護者 約60% (Blue), 約40% (Orange)<br/>         児童 約80% (Blue), 約20% (Orange)<br/>         教職員 約80% (Blue), 約20% (Orange)</p>     | <p>保護者 約35% (Blue), 約65% (Orange)<br/>         教職員 約60% (Blue), 約40% (Orange)</p>   |
| <p>教職員だけでなく、保護者・児童の95%以上が子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると捉えている。保護者の中には「わからない」と回答している保護者もあり、学校における安全教育の取組がどのようなことか理解されていないので周知の必要がある。</p> | <p>教職員・保護者共に家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を推進していると認識している。しかし、教職員と保護者の間に20%以上の開きがあるので、家庭や地域との連携・協力についての認識が同じになっていくよう、啓発や周知が必要である。</p> |

私が令和3年度から本荘小学校に赴任して以来、取り組んできたことに「安全安心な学校づくり」と「家庭や地域との連携」というものがあります。毎年の学校評価のこの点は、特にだいにしたいポイントです。

「安全安心」に関しましては、60%近くの保護者、80%以上の児童が「そう思う」という回答であり、すこしだけ安心したところですが。しかしながら、どこに危険が潜んでいるかわかりません。また、安心して過ごすことができるためには、設備面だけでなく暴言や暴力のない、学校生活も必要です。これまで以上に、しっかり取り組んでいきたいと考えます。一方「家庭や地域との連携」に関しましては、まだまだ課題が残ったと分析しました。令和3年度は、「そう思う」63.6%、「どちらかといえばそう思う」36.4%でした。令和4年度は「そう思う」51%、「どちらかといえばそう思う」43%、「どちらかといえばそう思わない」3%「そう思わない」3%という結果でした。今年度は、「そう思う」36%、「どちらかといえばそう思う」64%と、合計では100%をいただいているものの、令和3年と「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が逆転しています。これは大きな反省点です。校長として、自身の言動も含めて、一方的な面がなかったか自己点検を始めています。なぜなら、私自身の生き方として、「奢れるものは久しからずや」という言葉を戒めとしてきたからです。人は常に謙虚でなければなりません。

私は常々、子どもの成長は、「家庭と学校が手を携えあって」と話してきました。学校だけでは、子どもは育ちません。ご家庭だけでも子どもは育たないから、公教育機関である公立学校の存在意義があるのです。

しかし、学校が自分たちの立場だけを主張し、なんでもかんでも学校の好き放題にすることはできません。様々な子どもたちをお預かりする以上、当然考えなければいけないことです。ご家庭も同じですよ。だからこそ、学校評価のこの項目は大切にしていきたいのです。(裏面に続きます)

例えば、家庭学習です。「子どもが宿題をしない」これは、教師がよく抱える悩みです。当然ご家庭にご協力をお願いすることになります。ご家庭も、お勉強はできてほしいので、担任とご家庭でいろいろルールを決めたり、ポジ

タイプな声かけをしたりして、子どもが学習習慣を身に付けるように協力していきます。私の息子たちも、帰ってからすぐにリビングのカゴに連絡帳やプリントを入れる。遊びに行った後に6時から7時までは宿題などをやる。両親が帰ってそれを確認する。というルーティンをつくっていました。宿題を2日以上連続で忘れた時には、担任の先生から連絡をもらい、親が徹重注意をするという流れも担任の先生のご協力できていました。それでも、しないときはしないのですから腹を立てていた未熟なお父ちゃんでしたが(笑)。わが子のことはあまり成功例では言えませんが、私が担任だったクラスでは、同じルールでご家庭と連携していました。高学年の子どもは、部活の時間がありましたから勉強時間が8時から9時過ぎになっていたと記憶しています。おかげで、学級の平均学力は学年の中でも常に上位でした。子どもがちゃんと学習の習慣をつけているのですから当たり前のことです。秋田県も学力の高い県で有名ですがその基盤は家庭学習です。学校と家庭の連携で子どもは確実に伸びるのです。

各ご家庭でお悩みかもしれないスマホや動画の問題も同じくです。自分ただで考えてもなかなか前に進みません。今後とも一緒に考えていけたらと思います。(校長)

## 校長先生の虫眼鏡 「ちょっといいお話 家庭学習のヒントです」



家庭での ICT 端末活用の実践事例 (持ち帰り事例) × StuDX Style (mext.go.jp)  
[https://www.mext.go.jp/content/20220901-mxt\\_kyoiku01-000024782-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220901-mxt_kyoiku01-000024782-1.pdf)

これは、ICTを活用した家庭学習の実践事例です。参考にしてください。文科省のHPで公開されています。

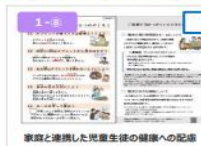
### 家庭でのICT端末活用の実践事例× StuDX Style



#### StuDX Style掲載の事例の中から、家庭での1人1台端末を活用した学習などの事例を紹介

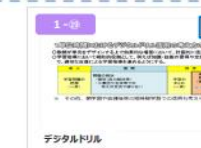
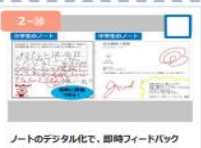
ICT端末を活用して、自宅等で学習を日常的に行うことは、家庭学習の質を高めるだけでなく、自立した学習者を育成する上でも必要です。ICT 端末の持ち帰りを安全・安心に行うためには、環境づくりに取り組むとともに、端末の管理の仕方や学習の目的・内容を、児童生徒・保護者と共有することが重要です。

家庭で端末を活用する上で、学校と保護者等との間で確認・共有しておくことが望ましいポイント

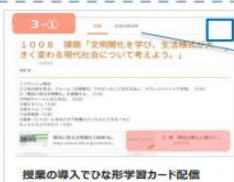


【参考】児童生徒の健康に配慮してICTを活用するためのガイドブック (令和4年3月改訂版)

家庭学習に使える活用事例



ちょっとした工夫で家庭学習に使える活用事例



家庭学習用ワークシートを配信して、端末を使って調べたり、まとめたりする。自宅にいなから、友達と協力して課題に取り組むことも可能。



課題について、オンライン上のデジタルホワイトボードに個人の考えを記入する。授業中に協働学習をするための準備としても活用できる。

ここに掲載されている事例は一例であり、それぞれの学校の実態、児童生徒の発達段階に合わせて工夫してください。  
 文部科学省 StuDX Styleウェブサイト <https://www.mext.go.jp/studxstyle/> (令和4年8月)